

平成 28 年度 第 1 回 仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録

日 時 平成 28 年 11 月 1 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場 所 仙台市役所本庁舎 2 階 第 1 委員会室

出席委員 阿部重樹委員 大瀧正子委員 折腹実己子委員 小菅玲委員 島田福男委員
鈴木孝男委員 中田年哉委員 中村祥子委員 根本勁委員 諸橋悟委員
渡邊純一委員 渡邊礼子委員 (計 12 名)

欠席委員 小岩孝子委員 庄司健治委員 (計 2 名)

事 務 局

◎健康福祉局	村上 健康福祉部長	宮野 総務課長
	大槻 社会課長	石川 保護自立支援課長
	高橋 障害企画課長	小野 障害者支援課長
	西崎 生活再建推進室長	下山田 高齢企画課長
	木村 介護予防推進室長	大浦 介護保険課長
	小林 健康政策課長	
◎子供未来局	利 総務課長	大森 子育て支援課長
	伊藤 運営支援課長	

オブザーバー

◎社会福祉協議会 安倍 地域福祉課長

担 当 課 健康福祉局健康福祉部社会課

- 次 第
1. 開 会
 2. 委員紹介及び職員紹介
 3. 会長選出及び副会長の指名
 4. 議 事
 - (1) 第2期仙台市地域保健福祉計画の進捗管理・評価について
 - (2) 第3期仙台市地域保健福祉計画の評価方法について
 5. 報 告
 - (1) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の取り組みについて
 6. その他
 7. 閉 会

事前配布資料

- 資料 1-1 第2期仙台市地域保健福祉計画の評価について
- 資料 1-2 第3期仙台市地域保健福祉計画策定に係る主要論点について
- 資料 2-1 第3期仙台市地域保健福祉計画の評価方法（案）について
- 資料 2-2 第3期仙台市地域保健福祉計画の評価について（様式案）
- 資料 3 平成27年度コミュニティソーシャルワーカー活動報告書

机上配布資料

- ① 委員名簿
- ② 職員名簿
- ③ 座席表
- ④ 仙台市社会福祉審議会運営要領

会議内容

1 開会

【事務局】

平成 28 年度第 1 回仙台市社会福祉審議会地域福祉専門分科会を開催する。

2 委員紹介及び職員紹介

平成 28 年 6 月 8 日開催の仙台市社会福祉審議会全体会における委嘱状交付及び委員紹介により、本分科会においては、委員名簿及び職員名簿の配布を以って紹介に替える。

欠席委員 2 名の報告及びオブザーバー出席の仙台市社会福祉協議会安倍地域福祉課長を紹介。

3 会長選出及び副会長の指名

委員からの推薦により阿部重樹委員を会長に選出

阿部委員の指名により鈴木孝男委員を副会長に選出

阿部委員と鈴木委員はそれぞれ会長席、副会長席に移動

【阿部会長】

阿部でございます。まずは会長選出において皆さま方にご推挙とご承認をいただいたことにお礼申し上げます。また、鈴木副会長におかれましても、引き続き副会長をお引き受けいただき感謝申し上げます。重ねてよろしくお願い申し上げます。さて、本日は 2 つ議事がある。「第 2 期仙台市地域保健福祉計画の進捗管理・評価」、それから、昨年度私たちが策定に係る審議を重ねた「第 3 期仙台市地域保健福祉計画の評価方法」についてである。今後の地域福祉の推進にたいへん重要な意味を持つ議事だと考える。限られた時間ではあるが、円滑な議事進行にお力添えを賜りたい。どうぞよろしくお願いしたい。

4 議事

【阿部会長】

議事に入る前に、本日の議事録署名人を指名する。名前の 50 音順のとおり、会長と鈴木孝男委員（副会長）を本日の議事録署名人として指名する。それでは早速議事に移らせていただく。議事(1)「第 2 期仙台市地域保健福祉計画の進捗管理・評価」について事務局より説明をお願いします。

【大槻社会課長】

（資料 1-1、資料 1-2 により説明）

【阿部会長】

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、意見・質問はないか。

全体評価に関して、私の所感を申し上げますと、5 つの重点施策ごとに、達成されたもの、今後の課題として残されているものが率直に記載されている。達成していないものについては、なかなか難

しい課題、問題が残されているがゆえのもの。委員の皆さんも同様の感想を持っていらっしゃると思う。

【中村委員】

各重点施策の評価のところは、成果と、課題・今後の方向性が分けて書いてあるが、全体評価のところは、これらが混在して記載されている。この理由について伺いたい。また、評価は、達成・未達成のみを記載すれば良いのか。今後の方向性として、具体的な展望を書き加えた方が良いのではないか。さらに、資料 1-1 の 13 頁に数値化されている図表があるが、全体評価の書きぶりからすると未達成のものがある一方で、評価のパーセンテージが高い。この点の整合性について教えていただきたい。

【阿部会長】

まず、1 点目は、5 つの重点施策のところでは、達成されている部分を一つの括りにして、それを受けて課題・今後の方向性を分けて記載しているが、分科会としての全体評価のところでは、それらが重点施策ごとにまとめて記載してある。どちらの記載のあり方もあると思うが、意図があれば教えていただきたいということ。2 点目は、次期計画に向けた展望や展開の可能性を踏まえた書き込みをして良いのではないかとということ。3 点目は…。

【中村委員】

例えば、「できた」とする評価が非常に高いが、個別の評価を見ると、できなかったことも多い印象を受けたため、パーセンテージとの整合性が気になったところである。

【阿部会長】

数値化されている評価結果については、あくまで連携の状況に焦点を絞ったものであると思う。各関係部局が、事業実施にあたって関係機関等と連携できたか・できなかったか自己評価した結果であり、そういった意味では、5 つの重点施策の評価との間に齟齬はないかと思われる。以上の 3 点について、事務局より回答をお願いしたい。

【大槻社会課長】

まず 1 点目について、本日お示しした全体評価の案では、5 つの重点施策ごとに、成果と課題・今後の方向性を混在した表現とさせていただいたが、もしこれが分かりにくいということであれば、それぞれを分けて記載することも可能である。2 点目の、次期計画に向けた取り組みの方向性についても、必要に応じて事務局にて書き加えることも可能だと考えている。あるいは、本日この場で議論いただくことも可能だと考えている。3 点目の数値の評価については、本日資料 1-1 の最後に参考資料として添付している個別事業ごとの自己評価シート中、7 番の結果を集計したものである。事業に関連する市内部の関係部局と連携できたか・できなかったか、地域の担い手と連携できたか・できなかったかを集計したものが 13 頁のグラフに反映されているものである。

【阿部会長】

1 点目については、事務局から説明があったとおりであるが、委員の皆さんから、積極的に成果と課題・今後の方向性を分けて記載した方が良いのではないかというご意見がありましたらお知らせ願いたい。なければ、事務局の書きぶりで良いのではないかと判断したいと思うがいかがか。

【渡邊委員】

事務局からのご説明ありがとうございます。ご説明いただいた 5 つの重点施策を、実際に地域で活動している立場から一つひとつ見ていくと、残されている課題に今後どのように取り組んでいくかがとても重要になってくると感じている。

例えば、1 点目は、「重点施策① 人材・コーディネーターの育成」である。今地域の中には、介護予防教室がたくさんできていて、それぞれの地域のリーダーたちが研修を受けて頑張っている。ところが、高齢者を主体とした教室であるため、実際に参加して帰宅した後、突然倒れた、というような健康面での心配が付き物である。地域の中心的役割を担う方々が、倒れたこと、または病気になってしまうことに対する責任感を物凄く感じてしまうということが実際にあった。行政と地域包括支援センターとで連携しながら実施している事業かと思うが、定期的に保健師を派遣するなど、健康面でのチェック機能を取り入れて欲しい。

それから、2 点目は、「重点施策② 話し合いの場づくり」についてである。たくさんの地域でサロン活動が行われていて、町内会もそうだが、高齢化が進んでいる。それに伴って認知症の方も増えている。認知症と分かればいいが、まだら的な症状の方もいる。認知症の方々も地域と一緒にケアしていきましようと言っても、お互いにけんかになってしまったり、意思の疎通がうまくいかず、サロンの内容についての会話ではなく、サロンとはまた別の人間関係が形成されてしまうこともある。

3 点目は、「重点施策③ 地域内の見守り・支え合いの促進」についてである。第 2 期計画、それから第 3 期計画でも、復興公営住宅整備地域における相談・コーディネーター役として、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置しているが、現在仙台市では何名の CSW を養成しているのか。また、具体的にどういった場面で相談・支援に出向くのかご教示いただきたい。地域包括支援センターに生活支援コーディネーターが配置されている。CSW と生活支援コーディネーターが連携していくとあるが、具体的にはどのように連携をして、地域包括ケアシステムをどのように構築していくかがなかなか見えてこないで、仙台市としての考え方について伺いたい。

最後に 4 点目です。今回、水害・災害に関する評価がたくさんあった。去年の 9 月の水害被害に時は本当に大変だった。私も夜中の 2 時に避難所に行ってずっと見守っていた。大雨の時にどのように高齢者を支援するかは物凄く難しい。仙台市では、防災マニュアルを考えて、地域防災リーダー等に研修を行っているが、地域は本当に高齢化している。高齢者が高齢者を援護していかなければならない時代になっている。このことについても既にマニュアルを変更していかないと地域での要援護者対策はなかなか難しいのが現状である。こういった点を次の地域保健福祉計画で本当に対応していかなければ、地域の形成が少しずつ崩れつつあるという現状が少しずつ見えてきているのではないと思う。

【阿部会長】

いくつか意見があったため、確認をしていきたい。まず 1 点目の介護予防教室に関しては二つ含まれていたかと思う。参加者が具合悪くなる可能性があるため、保健師の派遣等をしていただき健康チェックをする必要性があるのではないかという点。また、教室を手伝ってくれたサポーターが責任を感じてしまう部分について、支援者に対する心理的ケアの必要性があるのではないかという点。この 2 点について、事務局より回答をお願いしたい。

【木村介護予防推進室長】

介護予防推進室でございます。今、介護予防の自主グループが市内に 182 ヶ所ある。看護職を毎回派遣できればそういった不安はなくなると思うが、数の多さからすると各区役所の保健師が毎回従事することは困難な部分がある。現在、各区役所では地域包括支援センターと一緒に、スキルアップ研修など年数回、介護予防自主グループのサポーター研修会を実施している。その中で、参加者の具合が悪くなったときの対応、具体的には、救急車の手配の方法や、参加者の名札の裏側に連絡先等を入れて、何かあったときにすぐにご家族と連絡が取れるようにするなど、皆さんと一緒に考えながら仕組みを整えているところである。また、支援者が責任を感じてしまう部分についても、各区役所や地域包括支援センターと一緒に、心理的フォローアップのあり方などを考えていかなければならないと考えている。介護予防教室のサポーターも高齢化が進み、だいぶ後期高齢者の方も多くなっている現状がある。今後、どんなかたちであれば、介護予防サポーターを中心に実施している介護予防自主グループが、地域で安全に継続していけるかについては、今後の検討課題であると考えている。

【阿部会長】

続いて、2 点目。資料 1-1、5 頁に記載している「重点施策② 話し合いの場づくり」だが、この話し合いの場に、認知症の疑いがある方が参加されているような場合もあり、話し合いの場が難しくなることもある。もっと、地域で認知症についての理解を高めるような取り組みの工夫があった方が良いのではないかと、というご意見かと思うが、事務局の方ではいかがか。

【木村介護予防推進室長】

介護予防推進室では、現在、認知症対策にも取り組んでいるところである。認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々に、認知症の症状や対応方法などを理解いただくことで、地域の中で認知症の方を温かく見守っていくような取り組みを進めている。町内会、民生委員児童委員、老人クラブ、事業所など、幅広く地域の中で認知症の方を見守っていく取り組みを広げながら実施しているところである。

【阿部会長】

市では既に取り組みを進められていて、今後も継続的に取り組みを進められていくと思う。渡邊委員が指摘されたようなことを、私も半年前くらいに感じたことがある。自分も含め、講習の受講や、理解があまり進んでいないのが現状で、もっと認知症の方への理解を持たなければいけない時

代がすぐそこまで来ている。このことについては、厚生労働省も盛んに普及・啓発しているところであるが、なかなか一歩踏み出さない現状をブレイクスルーしていただきたいという願いだと思う。

それから、3点目は、資料 1-1、7 頁にも記載の CSW の取り組みについてであるが、現状については、のちほど、次第の報告事項の中で、仙台市社会福祉協議会から説明があるかと思う。ここでは、現在、重点的に活動を進めている復興公営住宅に限定されない、その他の地域社会における CSW の活動の展開の可能性について事務局よりお答えいただきたい。

【大槻社会課長】

CSW については、現在、復興公営住宅整備地域を中心に活動しているが、今後の展開を見据えると、市内の各地域で、要援護者を対象とした見守りや災害時の支援の仕組みづくりが課題となっていることから、こういった課題を踏まえ、CSW が各地域でのつなぎ役となり、地域の「福祉力」の底上げを図っていききたいと考えている。なお、CSW の人数については、現在 12 名を配置している。

【阿部会長】

ありがとうございます。評価の中にもご記載をいただいたため、少し詳しくお話をさせていただきますと、私どもの大学が取り組んでいる CSW の養成プログラムは、年間最低 120 時間以上の、なかなか大変な研修を受けていただくタイプの研修になっている。仙台市内から 10 数名、県外の方々 4～5 名に受けていただいている。一方で、土曜日半日や、土曜日午後から日曜日午後までといった一泊二日型のタイプの研修が行われている、あるいは、来年度行われようとしている。時間が非常にライトな研修であれば、人数はたくさん養成されるが、どれほどの意味があるかについてはなかなか難しい。私どもの大学で実施している研修が良いかと言えば、なかなか人数が出てこない。それから、今さら研修を受講するまでもなく、自他ともに認める優秀な CSW もいる。そうしたさまざまな CSW をどのように社会的に承認していくかという難しい舵取りも今求められている。加えて、保健師や地域包括支援センターの職員の方々、児童相談所の児童福祉士など、いろいろな職種の方が既に、仕事の中で CSW の役割を果たされている。こういった方々の社会的認証の仕組みづくりも今後の検討課題だ。CSW の養成については、今後も、仙台市、仙台市社会福祉協議会、地域包括支援センターなどとも一緒に考えながら進めてまいりたい。

それでは最後に 4 点目、資料 1-1、9 頁の「重点施策④ 災害時要援護者支援体制の構築」に関して、災害時に支援が必要な要援護者を支援する側も、かなり高齢化が進んできている。こうした現状への目配りや対応について、事務局から回答をお願いしたい。

【大槻社会課長】

一筋縄にはいかない課題と考えている。先ほども申し上げたように、災害時要援護者の登録リストを町内会で受け取っていただいているものの、個別の要援護者の支援やマッチングがなかなかうまくいかない地域がある。その担い手の確保について、すぐには解決できない課題だと思っているが、先ほど触れた、CSW による地域支援の力も借りて、できるだけ要援護者を地域で支援いただけるよう進めてまいりたい。突然、要援護者の担い手になる、となると、その担い手の確保が難しいため、まずは地域で見守りや生活支援活動など、小地域福祉ネットワーク活動に町内会の一員とし

て参加いただき、その活動の中で徐々に要援護者の支援をする担い手を確保していく。現時点で明確な手法を持ち合わせている訳ではないが、こうした担い手の裾野を世代を問わず、まずは拡大していかないと、地域での担い手の厚みがでないと思っている。

【阿部会長】

ありがとうございました。会長としても、最初に申し上げたように、残された課題は、なかなか解決が難しい問題が残ってきている、ということだと思う。それでは、話を少し戻して、全体評価の書きぶりについてだが、中村委員いかがか。

【中村委員】

すみません。重点施策の頁と全体評価の頁で異なるので、少し戸惑うかなと感じた。それから、渡邊委員も先ほどおっしゃっていたが、私も、CSW の配置人数がとても興味深かった。12 名という人数で、直接地域の要援護者や災害時の見守りを一人するのはとても無理だと思う。中学校区単位で設置されている地域包括支援センターに生活支援コーディネーターが配置されている。また、小学校区には連合町内会や地区社会福祉協議会のリーダーなどがいる。昔、こういった身近な地域のリーダーたちを支援するコーディネーターの育成についての案があったと思う。身近な地域で活動し、顔の見える関係性を構築していれば、災害の程度に応じて、支援が必要か否かの判断が可能になると思う。こうした、身近な地域で活動をする町内会や地区社会福祉協議会のリーダーを支援するコーディネーターの役割を担う人材が必要で、そういった人材をどのように育成していくかについてそろそろ踏み込んでもらえないか、という思いがある。現在、CSW は、人数からしても、地域包括支援センターとともに、地域人材の育成を担ったり、地域でリーダー的役割を担っている方々に、地域コーディネートの仕方を教えたり、指導的な役割を果たしていると思う。もう少し地域密着型の幅広いコーディネーターの育成が今後の構想として必要だと感じている。

【阿部会長】

CSW の取り組みについては、後半の報告を聞いていただくと、地域密着型で活動してきているという内容になると思う。配置人数については、復興公営住宅が 40 か所程度だったかと思うが、数年間にわたって着工されてきているので、それに合わせて 12 名の CSW が各区の復興公営住宅に関わってきたという理解でよろしいかと思うが、事務局より回答をお願いしたい。

【三井社会課地域福祉係長】

はい。12 名の内訳だが、仙台市社会福祉協議会の各区事務所に 2 名ずつ、それから青葉区宮城支部事務所に 2 名配置している。まず、1 名の CSW と、それを統括する係長級の統括 CSW1 名の計 2 名体制で、各区ごとに活動を進めている。現在は、復興公営住宅における新たなコミュニティ形成づくりの支援として、町内会の結成や地域住民主体の支え合い・助け合いの仕組みづくりに関わっている。市内における先行的な事例では、田子西復興公営住宅が挙げられるが、地域支援には約 2 年程度かかった。現在、重点的支援地区として活動を進めている復興公営住宅は、33 ヶ所あるが、このすべての地域での支援を終えるまでには、平成 29 年度末までかかる予定である。活動を進める

中で、地域住民の自立により支援が必要な地域が減少してくることが見込まれることから、今後は、市内 104 地区ある地区社会福祉協議会の活動の支援や、市内 50 ヶ所ある地域包括支援センターとの連携を進めながら、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを進めていきたいと考えている。

【阿部会長】

今説明があったように、現在の CSW の役割は、地域のリーダーではあるが、指導するというよりは、実際にコミュニティづくりに関わっているというのが現状だと思う。

【中村委員】

要援護者の見守りということになると、より地域に密着していく必要がある。震災のときにすぐに行動を起こしたのは、直接支援をしている介護事業者である。そういう人たちが、あの方には毎日 3 回薬が飲めるように水を届けなければいけない、といった見守りを行っていて、その方の状況を把握している人しか実際に動けない。ですから、要援護者の見守りをするのであれば、もう少し身近なところで支援をしていった方が合理的だと考える。

【阿部会長】

なるほど。中村委員は、多層的・重層的な人材の育成をおそらく想定されているのだと思う。

【三井社会課地域福祉係長】

災害時要援護者の支援に関しては、現在、概ね 13,000 人の登録があり、そのリストを町内会、地区社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員児童委員の 4 つの地域団体に配布している。この取り組みの中心となっているのが、やはり一番小さな地域の単位である町内会で、一つの町内会あたり、10 名程度の要援護者がいるかたちになる。要援護者を地域で見守っていく体制を整えるためには、町内会の会長さん、役員さんだけでは難しい。進んでいる町内会では、班単位で、例えば民生委員さんと町内会の会長さんが初めに要援護者のご自宅へ訪問し、実際の支援は班長や隣近所などの身近な地域の方を支援者に決めていくなどしており、こうした地域の体制づくりをコーディネートする役割が本当に重要になってくる。ここでは、このコーディネート役を民生委員の方がやっていたり、町内会長さんにやっていただいたりしていて、この取り組みにあたっては、とても重要な役割を担っていただいていると考えている。

【阿部会長】

それでは、また話を戻すが、全体評価の書きぶりはいかがでしょう。よろしければ、このまま進めてさせていただきたい。それから、次期計画の推進に向けた展望という点について、現状では、単に課題が書かれているだけなので、委員からのご指摘を踏まえ、可能な範囲で少し書き加えるということを会長として考えている。そこで、少し早いかもしれないが、追加する箇所等については、事務局の方と私会長の方にご一任いただき、相互にチェックし合いながら進めさせていただく方向で考えているのがいかにか。各委員の皆さまのご意見を伺った方が良いかどうかの判断を、必要に応じて、鈴木副会長のご意見も求めながら、委員の皆さまのご負担にならない範囲で進めていきたい

と考えている。

基本的な書きぶりや文言に関しては、ご指摘・ご質問・ご意見等はなかったかと思うため、その方向性で進めていきたい。第3期計画は、既に昨年度中に本分科会における審議を踏まえ策定しているが、課題から第3期計画の扱い方や推進につなげていく評価ということもあるかと思う。事務局と話し合いしながら、必要に応じてという考え方で、事務局もよろしいか。

【各委員】

ー了承ー

【阿部会長】

それでは、ここまでの審議に大変感謝申し上げます。記載内容については、事務局と会長にご一任いただいたが、今後、これを分科会における評価として、ホームページ等で公開する必要があるかと思うが、その点についても確認させていただきたいが、よろしいか。

【各委員】

ー了承ー

【阿部会長】

それでは、先に進めさせていただく。続いて、議事(2)「第3期仙台市地域保健福祉計画の評価方法」について事務局より説明をお願いする。

【大槻社会課長】

(資料2-1、資料2-2により説明)

【阿部会長】

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、意見・質問はないか。はい、折腹委員。

【折腹委員】

最後に説明いただいた「自己評価シート(案)」の、連携する相手先の⑩コミュニティソーシャルワーカーと⑪の仙台市社会福祉協議会の各区・支部事務所について、なかなか分けにくいように思う。実際に連携する中で、どのような立場で関わるのか、その区別が難しいように感じた。

【阿部会長】

現場の立場からだと、⑩番と⑪番を分けて考えることが実践活動において難しいのではないかと、いうご指摘であった。事務局いかがか。

【大槻社会課長】

折腹委員おっしゃるとおり、ケースによっては、CSW と市社協の職員が協働して連携するような場合もあるかと思う。事務局の考え方としては、基本的に、CSW が主体となって活動する際には、CSW の方でカウントするという考え方を取りたいと考えている。

【阿部会長】

この点に関しては、各事業所管課へ照会する際に、回答方法等について説明を加えた方が、答えやすいのではないかという趣旨でもあったかと思う。併せてご検討いただきたい。他にはいかが。はい、中村委員。

【中村委員】

地域包括支援センターというのが、「自己評価シート（案）」の連携相手の中に、特別記載していないが、これはどこに入るのか。

【阿部会長】

事務局いかがか。

【大槻社会課長】

地域包括支援センターについては、この中では、⑤の相談機関として考えている。

【中村委員】

今後のデータを取る際にも、例えば相談機関といっても、障害者支援の機関と、現在、高齢者中心に事業を進めている地域包括支援センターとがあると思うので、できれば、市の関係部局に括弧書きで具体的な組織名を記載するように、相談機関というところにも具体的に記載できる様式とするか、いくつか列記して、選択方式にして○ができるようにするとか、少し工夫するとデータとしては揃うかと思う。

【大槻社会課長】

はい。⑤番の相談機関については、例えばの案だが、相談機関の隣に括弧を入れるなりして、機関を区分できるよう工夫をしたい。

【阿部会長】

他にはよろしいか。それでは、ただいま社会課長の説明の中でも二、三度、それから最後の総括でも、前期と同様の手法内容を継承して、あるいは、一部改正してというようなご説明があった。基本的な点においてご確認、ご了承いただいたと理解させていただきたいと思う。なお、折腹委員、中村委員からの改善につながるようなご指摘については、検討・修正いただき、また、急ぐ話でもなかろうかと思うので、技術的な改善に関わる部分は事務局の方に随時ご連絡いただければと思う。事務局でもそのように受け止めていただければと考える。

5 報告

【阿部会長】

それでは、続けて、次第の 5.報告事項に移らせていただく。「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の取り組み」について、事務局より説明をお願いします。

【大槻社会課長】

それでは、会長からのご紹介があったが、本日は、実際に活動を担う仙台市社会福祉協議会の職員に同席いただいている。同協議会の安倍地域福祉課長より、資料 3 を用いて CSW の取り組み状況をご紹介させていただく。スライドの準備が出来次第、ご説明に移らせていただく。

【安倍市社会福祉協議会地域福祉課長】

（資料 3 及び資料 3 のポイントをまとめたスライドにより説明）

【阿部会長】

ありがとうございました。ただいまの説明について、意見・質問はないか。はい、中村委員。

【中村委員】

これまで、社会福祉協議会の仕事は、コミュニティソーシャルワーカーの仕事であると思っていた。最近、改めてコミュニティソーシャルワーカーという名前を持った人が特別に配置された理由は、介護保険制度の改正に伴う地域の人材育成やアウトリーチ型の課題解決のリーダーの育成のためかと思っていた。しかし、先ほどのご報告だと、復興支援と地域支援に当たっているということで、これまでの社会福祉協議会の役割と特別に変わらないように感じるが。

【阿部会長】

事務局は、いかがか。

【安部地域福祉課長】

はい。基本的に、社会福祉協議会の取り組みというところでは従来と大きく変わるころはないというふうには考えている。ただ、平成 25 年度からの CSW の配置については、本会の地域福祉推進の新たな重点的取り組みで、仙台市として復興公営住宅における被災者の支援に新たに取り組むこととなったためである。本会では、新たなコミュニティ形成支援や住民主体の見守り・支え合い体制づくりの支援など、新たな地域としての課題解決に当面对応し、地域福祉推進の充実を図っていくということである。

【阿部会長】

よろしいだろうか。

【中村委員】

－了承－

【折腹委員】

今後の展開として、復興公営住宅の支援を継続しながら、それ以外の市内全域の地域支援に活動を広げるとすると、今の 12 名の体制ではとても難しい。各地域の課題が相当ある。そのコミュニティづくりの支援をしっかりと展開するとなると何らかのかたちで人員配置増や体制の改変、あるいは、介護保険制度以外のサービスづくりなどが必要だ。厚生労働省が言っている共生型社会というところを目指していくならば、相当深く掘り下げた展開をしていかなければならないと思う。そういったところの今後の見通しというのは、これからのことだとは思いますが、考えていかなければならないと感じている。

【阿部会長】

ご意見としていただいたが、事務局の方からはいかがか。

【大槻社会課長】

先ほど、渡邊委員からも同様のご質問をいただいたが、現在、CSW は、復興公営住宅での被災者への支援、サロンの開催支援、先ほどご報告があったような助成金の申請のお手伝いなど、これまでは比較的成果が見えやすい取り組みをしていただいている。今後、仮に復興公営住宅での支援がひと段落ついた際に、市内各地域でのコミュニティ支援を CSW の力を使ってどう展開していくのかとなると、例えば町内会や地区社協の方々との役割分担も含めて、CSW の位置づけをはっきりしていかないといけない。先ほども話が出た、CSW の活動手法の標準化、見える化も進めながら、人員配置の数については、その辺の整理をした上での検討かと考えている。

【折腹委員】

今、地域包括ケアシステム構築の中で、概ね中学校区ごとにある地域包括支援センターが、体制整備事業の中の生活支援コーディネーター、第 2 層の役割をいただいている。先ほども話が出たが、第 3 層のもう少し小さな小学校区ごとの、あるいは、もう少しきめ細かな支援の体制が必要だと思うが、第 1 層の、例えば、区毎のコーディネーター役もとても重要な部分だと思う。今後の展開の中で、そういった点も含めて区の体制というのも考える必要があると考えている。どのような体制で仙台市は実施していくのか、今どんどん状況が動いているところなので、方向性をお出しいただく必要があると思っている。併せてお考えいただけたらと思う。

【阿部会長】

はい、高齢企画課長、お願いします。

【下山田高齢企画課長】

ただいまの折腹委員の意見、ごもっともなところでございます。仙台市におきましては、第2層の生活支援コーディネーターというところを先行してやっているが、他都市においては、第1層から入っているところなど、さまざまな方法がある。他の政令指定都市の状況を見ると、第1層のコーディネーターの役割を、あるところに一括して委託していたり、公募という手法で選定している都市もある。そういったところの事例を研究しながら、仙台市においてもこういったあり方が望ましいか、こういったかたちであれば第2層のコーディネーターとうまく連携してやっていくのかなどを検討しながら、平成30年度から開始となる次期高齢者保健福祉計画の策定にも向けて、検討を進めたいと考えている。

【阿部会長】

よろしいだろうか。はい、中村委員、どうぞ。

【中村委員】

資料1-1の第2期計画の全体評価にも総括してあるとおり、複合的な課題を抱える世帯が多くなってきていて、複数の課題が一世帯の中でも織りなしている状況になっている。それに、貧困問題など、以前にも増してとても複雑になっている。高齢者という切り口だけとか、障害者だけの切り口だけというような、単独の専門のコーディネーターだけではなかなか対応できない部分、まさにソーシャルコーディネーター、ソーシャルコミュニティワーカーの出番であったり、連携の仕組みであると思う。障害に関する相談機関では、地域包括支援センターのような役割を担うところというのは数が少ないと思っている。相談機関はなかなか増えないのが現状ですので、そこも併せて検討いただければたいへんありがたいと考える。

【阿部会長】

はい。さまざまご意見を頂戴しました。今、中村委員のご発言の中にもあったが、複合的な問題を、それぞれの個別の専門機関、あるいは、支援組織に結びつけるという意味でのコーディネート、CSWもその役割を担うものと理解をしている。各委員におかれても、地域活動の中で、CSWの養成・育成について、なお、ご協力をいただければと考える。

なお、ご協力をということで、私からもお願いをしたいのが、CSWというのは、言われて久しいが、資格化されていない。誰がCSWかっていうのは、全く分からない状況だ。一方で、社会福祉協議会の仕事は、CSW的だというが、社会福祉協議会の職員の中でも、地域福祉の前線に出ている職員とそうでない職員がいる。誰がCSWか、人事異動もあるし、分からない面もある。私から、先ほど、社会的な認証が必要だというふうに申し上げたが、別の言葉で申し上げると、地域限定盤の実質的な資格化が必要なのではないかと考えている。CSWの見える化である。そのためには、関係各位のご了解・ご理解をいただいた上で、実質的な地域限定盤の資格化をCSWについても踏み出していかなければ、CSWがキーパーソンとしての社会的な評価も、評価に裏付けられた役割も果たせないのではないかと思う。そういう意味で、CSWの、宮城県としての、それからここでは仙台市としての養成ということについて、なお一層のご理解とご支援・ご協力をお願いした

いと考えている。

これから踏み出すところだと思う。今までないことを作り上げようと、私たちの仙台市の地域保健福祉計画でも踏み出そうとしている。たいへん興味深いことだと思うので、皆さま方のなお一層のお力添えをいただければと思う。これが成功したあかつきには、仙台市発の全国への CSW の取り組みということになるだろうと思う。こういうモデルが、仙台市から全国に発信されると、そういうことへの喜びを共有していただきながら、お力をいただけたらなと思っている。

6 その他

【阿部会長】

それでは、次第 6.「その他」に進ませていただく。まず委員の皆さま方から何かございますか。

【各委員】

特になし

【阿部会長】

続いて、事務局から何かございますか。

【事務局】

特になし

7 閉会

【阿部会長】

それでは、これで議事の一切を終了し、本日の分科会を終了させていただく。長時間にわたる熱心なご議論、あるいは、ご意見に感謝申し上げます。それでは事務局にお返しする。

【事務局】

本日は、熱心に皆さまにご議論いただきまして、本当にありがとうございました。今年度は、会議としては今回が最後になる。また、来年度、第 3 期計画の進捗管理・評価についてよろしくお願いしたい。それでは以上をもって本日の分科会を閉会とさせていただく。

以上